

札幌市不妊専門相談センターの取組

取組のポイント

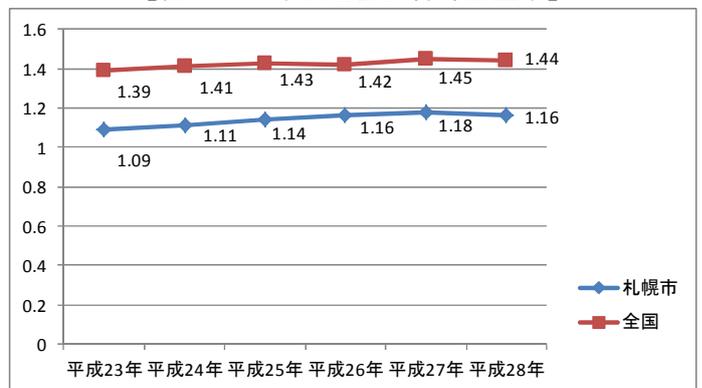
- ・ 専門相談は地域の医師6人、不妊に関する専門知識を持つ看護師と不妊に関するカウンセラー等の3人がローテーションで相談員を担当し、相談内容に応じてきめ細やかに対応。
- ・ 不妊治療に関するセミナーでは、「不妊治療の始めどき・やめどき」など不妊に関する実際の悩みを踏まえた情報提供を実施。

1 札幌市における不妊治療施策の位置づけ

札幌市は人口約195万人、世帯数約100万世帯¹である。札幌市の合計特殊出生率²は平成23年の1.09から徐々に上昇し、平成27年には1.18となっているが、全般的に全国平均を下回って推移している(表1-1)。

札幌市では、未婚率が高く夫婦間の出生数が少ない状態が続いている課題に対し、平成28年に「さっぽろ未来創生プラン」を策定した。同プランでは、平成31年までに合計特殊出生率を1.36まで上昇することを数値目標として掲げている。目標を実現するための取組として、市民の結婚・出産・子育てに係る不安や負担を軽減するための環境づくりを進めており、妊娠に関する取組では「不妊に悩む方への支援」として「札幌市不妊専門相談センター事業」と「特定不妊治療費助成事業」、「不育症治療費助成事業³」、「第2

【表1-1 年次別合計特殊出生率】



※1 全国値は平成28年人口動態調査(厚生労働省)、札幌市の値は平成27年札幌市衛生年報、平成28年札幌市における人口動態総覧(札幌市)による。
※2 全国値は母の年齢15～49歳の各歳における出生率の合計。都道府県の値は平成26年まで、平成28年は母の年齢5歳階級における出生率5倍の合計、平成27年は母の年齢15～49歳の各歳における出生率の合計。

【図1-1 さっぽろ未来創生プラン】

さっぽろ未来創生プラン

数値目標: 合計特殊出生率1.36(～平成31年)

(1) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

- ① 結婚の希望をかなえる支援
- ② 妊娠期から子育て期までの支援
 - ・ 不妊に悩む方への支援
 - 札幌市不妊専門相談センター事業
 - 特定不妊治療費助成事業
- ③ 子育て支援の充実

[アフターサービス推進室作成]

¹ 人口194万7,494人、世帯数103万7,733。「平成29年住民基本台帳人口・世帯数(市区町村別)」(総務省)による。

² 1人の女性が一生の間に産むとされる子どもの数の指標。全国地は母の年齢15歳～49歳の各歳における出生率の合計。

³ 不育症(疑いを含む)と診断され、対象となる検査及び治療を受けた夫婦を対象として、1回の治療期間につき10万円を上限として助成。

子以降特定不妊治療費助成事業⁴」を実施している。

2 札幌市不妊専門相談センターの概要

札幌市不妊専門相談センター（以下「相談センター」という。）は、平成17年度に札幌市中央保健センターに開設し、平成21年度に同市保健所へ移転した。現在は札幌市健康企画課（以下「健康企画課」という。）が運営している。健康企画課は、特定不妊治療費助成事業（以下「不妊治療費助成」という。）の申請窓口ともなっているため、申請で窓口を訪れた市民が相談していくことも多い。健康企画課では、不妊治療費助成



【札幌市不妊専門相談センターは札幌市保健所内に設置】

の申請や問い合わせで来所した市民に相談センターを案内し、気軽に相談ができる場所として利用してもらうよう働きかけている。

3 相談体制

（1）一般相談

相談体制は専任の相談員が電話と面接で対応する一般相談、医師及び不妊に関する専門知識を持つ各職種が面接する専門相談がある。一般相談は不妊治療費助成の窓口対応と同じ曜日・時間に受け付けており、相談員は保健師または助産師の資格を持ち、2人を配置している。

（2）専門相談

専門相談は表3-1のとおり月4回開設し、相談時間は1組（1人）1時間の予約制となっている。専門相談の特徴としては、相談員が医師6人、不妊に

【表3-1 札幌市不妊専門相談センター 相談体制】

相談対応		曜日	時間	相談員
一般相談	電話相談	月曜～金曜	8時45分～12時15分 13時～17時15分	保健師、助産師
	面接相談			
専門相談 (予約制)	面接相談	第1・3火曜	午後	医師
		第2・4月曜		不妊に関する専門知識を持つ看護師、 不妊を専門とするカウンセラー、 高度な生殖医療に関するカウンセラー (看護師、助産師)

【アフターサービス推進室作成】

⁴ 特定不妊治療費助成事業による助成を受けて出産し、平成28年4月以降に第2子以降の出産のため特定不妊治療を受けた方を対象として、1回の治療につき上限15万円を助成。

関する知識を持つ3人（看護師又は助産師の資格を持つ）の計9人が配置されている点である。医師は全て札幌市及び近隣の医療機関に勤務し、3か月に約1回担当するローテーションとなっていることから、フレキシブルに相談対応ができる体制となっている。

医師及び不妊に関する知識を持つ相談員については、相談者の内容に応じて健康企画課が適切な相談員をマッチングしている。

4 相談内容

（1）一般相談

一般相談では、相談者が「自分が不妊の状態であるのか」、「不妊であればどのような病院に行くのか」、といった不妊に関する知識や情報を知りたいという相談が多い。札幌市では不育症治療費助成事業を実施していることから、「不育症はどのような症状を指すのか」といったような相談も多く、いずれも不妊に関する基礎的な情報を踏まえて説明している。相談者の状況について詳細なアセスメントを踏まえた回答が適当であると判断した場合は専門相談を紹介し、予約を取っている。

男性の医師が対応することへの不安感を軽減するために、一般相談で受け付けた女性の相談員が専門相談に同席している。



【一般相談の窓口】
相談員から：「市民の皆様が安心できる場所をめざします」

（2）専門相談

専門相談では、既に不妊治療を受けている相談者が治療内容または治療方法を検討するためにセカンドオピニオンとしての見解を求める相談、不妊治療をめぐる夫婦（パートナー）間の性生活を含むコミュニケーションに関する相談などが多い。

治療内容についての相談は、不妊治療の一般的な流れから最先端の治療法まで幅広く、治療法の検討に関する相談には医療機関での検査結果などのデータを持参する相談者もいる。相談員それぞれの専門性を活かしながら、わかりやすくエビデンスに基づいた説明を心がけている。一例では、難治性不妊症と思われる相談者には、最新の研究を踏まえて有効な検査があることを説明し、医療機関の情報を提供している。

セカンドオピニオンとしての相談では、治療内容に強い不安を持つ患者が継続して専門相談を利用し、医師と不妊を専門とするカウンセラーなど4人の相談員から「現段階で最善の治療法が行われている」と同じ見解であったため、安心して治療に臨めるようになった、というケースもあった。

また、夫婦（パートナー）間のコミュニケーションについては、不妊治療は、治療の各過程が夫婦の関係性に関わるデリケートな事柄でもあることから、不妊治療に関する女性と男性の違いやそれぞれが抱える精神的な負担などを丁寧に説明している。



【専門相談のスペース】
相談員から：「まずはお気軽にお話に来てください。いろいろ手立てはありますので、一緒に考えましょう！」

5 相談の対応事例

以下に、札幌市不妊専門相談センターにおける対応事例の一部を紹介する。

（1）不育症について

Q. 不妊治療の結果、妊娠したのですが流産してしまいました。以前も流産を経験しており、不育症かもしれないと思うのですが、このまま不妊治療を続けていいのでしょうか。

〔対応のポイント〕

・不育症はまだ解明されていない部分が多く、現在も治療法や研究が進められていること、そのため医療機関や検査結果によっても診断が異なることを説明した上で、2回以上の流産を経験されていれば、医療機関で受診することを勧めている。相談者には妊娠と流産を繰り返す中で、妊娠しても不安に苛まれる方が少なくない。相談員からは不育症と思われる症状の患者は、気持ちを表出するカウンセリングなどを継続することで、妊娠から出産に至るエビデンスがあることを紹介し、不安や心配を溜めずに相談センターの利用や医療機関の医師、カウンセラーなどに話すことを勧めている。

（2）不妊治療と仕事の両立について

Q. 仕事をしながら不妊治療を続けていますが、通院のために勤務中に数時間休みを取ったり、突然1日休まなければならないことがあり、疲れてしまいました。このまま仕事を続けるか悩んでいます。

〔対応のポイント〕

・札幌市不妊専門相談センターの相談者は、不妊治療と仕事を両立している方が大半となっている。相談員からは治療だけの生活になってしまうと重圧からストレスが強まることにもなり、経済的な負担も増えてしまうことから、可能な限り仕事を続けた方がよいことを話している。

事例のような通院の調整に関する職場への心苦しさを、痛みを伴う治療による身体の負担感を抱えたままの勤務などへの対応としては、相談者の生活リズムや勤務体系に合った医療機関を紹介している。市内や近隣の医療機関では、・土曜、日曜の午前に受診が可能、・受診の受付が出勤前の7時から可能、または勤務後の18時半まで可能、などの受付及び受診可能な時間を具体的に案内し、相談者が負担を軽減しながら仕事と治療を進められるよう支援している。

(3) 夫婦(パートナー)間の関係性について

Q. 治療の方法や内容をめぐって、妻と関係がぎくしゃくしてしまいます。もっと治療に積極的になってほしいと言われ、自分では前向きに取り組んでいるつもりなのですが、いつも怒られるので萎縮してしまいます。

〔対応のポイント〕

・不妊治療に対する男女間の考え方や向き合い方の違いに関する相談は多い。不妊治療は主に女性を治療対象として進める場合が多いことから、妻である女性が「自分は頑張っているのに夫は同じ思いで協力してくれない」と感じ、夫婦関係に亀裂が生じることもある。事例のような相談には、相談員から、治療の主体となっている妻の治療について説明し、身体的・心理的な負担があることを踏まえて支えていくことを話している。

他方、男性不妊の相談も増加傾向にある。男性の不妊について一般的な情報が不足しているために、例えば無精子症と診断を受けて大きなショックを受けている相談者には、治療の方法を丁寧に説明し、継続的に相談を実施することもある。

不妊治療は治療の各段階が夫婦の関係性に関わるものであり、これをしなければいけない、と考えすぎることなく、“赤ちゃんを抱っこするため”という目的に向けたポジティブな気持ちを持つことの大切さを伝えている。

6 相談受付実績

開設から平成29年5月までの相談件数は、電話相談：1万2,069件、面接相談：1万4,474件である。相談件数は他の不妊専門相談センターの件数と比較して多いが、治療費助成の申請窓口が相談対応と共通であることから、申請件数や申請に関する問い合わせを含めた計上となっている。制度の問い合わせな

どをきっかけとした市民の不安や辛さの受け皿となっている体制づくりが、市の窓口を設置されている利点ともなっている。表6-1のとおり、専門相談は平成24年度以降、30件前後で推移している。

【表6-1 相談受付の実績】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
電話相談	752	1,315	1,762	1,995	1,723
面接相談	1,385	1,578	1,635	1,821	1,850
専門相談	35	46	27	34	39

[アフターサービス推進室作成]

7 セミナー・交流会の実施

不妊治療に関するセミナーと不妊の当事者や経験者の交流会を平成20年度から実施しており、セミナーは主に基本的な知識や症状に応じた治療方法などをテーマとしている。平成27年度からは「不妊に関する情報室」として開催し、平成29年度は表7-1の内容で実施した。不妊治療の一般的な現状として、①不妊治療を開始する前、②治療中、③治療を経て終了を考える時期、の各段階で患者は様々に心理的な変化を経験する。特に③の段階では、妊娠・出産という成果が得られないまま終了して本当に良いのか、もう少し続けていけば授かるのではないかと、という思いで揺れ動き、いわゆる「やめどき」がわからないまま、経済面と心理面で深く悩んでしまうことも多い。このような背景を受けたセミナーでは1人あるいは夫婦で参加することで、一般的な状況を踏まえ、自分自身の治療の方向性を考えるきっかけとなっている。

交流会はセミナーの後に参加者同士の語り合いを実施している。参加者は10人前後となっており、交流しやすい人数である。交流会は必ずしも発言を求めるものではなく、参加のみでも可能であることを案内しており、「交流会は欠席するつもりだったが、他の方の話を聞いてよかった」という参加者からの感想があった。

【表7-1 平成29年度「不妊に関する情報室」実施内容】

	月日	時間	セミナー内容 「ご夫婦一緒に考えましょう」	講師(勤務先)	参加人数
1	6月6日(火)	13時半 ~15時	不育症について	医師 (レディースクリニック)	15
2	9月11日(月)		不妊治療を始める・始めたあなたへ	不妊を専門とするカウンセラー (市内産婦人病院)	9
3	12月11日(月)		不妊治療の実際とやめどき	不妊を専門とするカウンセラー (市内総合病院)	9

※1 2・3回目はミニサロン(交流会)を実施

※2 講師は札幌市不妊専門相談センターの相談員

[アフターサービス推進室作成]

8 情報の発信

札幌市不妊専門相談センターの情報発信は、リーフレットを市内の産婦人科（約70）に送付している。「不妊がもたらす心理・感情」などの説明がわかりやすくまとめられ、不妊に関して疑問や不安のある方が手に取ってもらいやすいよう工夫している。

妊娠の成立～男性側の条件・女性側の条件～

不妊に悩まないために

札幌市では、不妊に関する専門知識をもつ医師・カウンセラー・保健師・助産師が相談をお受けしています。どんなことでも、ひとりで悩まずご相談ください。

札幌市 不妊専門相談センター

*相談専用電話 622-4500

*受付時間 月～金 午前8:45～12:15
午後1:00～5:15

ホームページ 札幌市不妊専門相談センター
http://www.city.sapporo.jp/eisai/inf.html

不妊症に悩まないために

不妊がもたらす心理・感情

不妊治療は、身体的・精神的な苦痛だけでなく時間的にも経済的にも負担を伴います。スタートラインにはご夫婦そろって立ち、お互いの気持ちを確かめ合い、二人で考える時間を作るようにしましょう。

***不妊に気づくとき**
「不妊かもしれない」と最初に考えるのは女性のことが多いようです。「まさか」と思う気持ちと、「もしかしら」という不安な気持ちが入り混じっています。

***検査から診断まで**
「不妊かもしれない」と思っている、検査の結果として「不妊症」と診断されることはショックなことです。自信が揺らいだり、パートナーに申し訳ないと感じたりすることもあります。

***治療を受けているとき**
原因がはっきりしなかったり、治療によって妊娠するという見通しもつきにくく、子どもができないという悲しみや焦る気持ちが強くなります。

***治療が不成功だったとき**
自分の努力が足りなかったせいと思ったり、悲しんでいる時間はないと自分自身を責めてしまったり、自己嫌悪を抱いてしまうことがあります。

***治療が長期にわたるとき**
今の治療でよいのか、今の病院でよいのかという迷いや疑問が生じたり、いつまでこの生活が続くのかと不安になります。

***治療を終えるとき**
ご夫婦のどちらからも「ここまでしよう」と言えず、もう少し続けてみようか、もうおしまいにしようかと気持ちが揺れます。

心を軽くするために

不妊に関する悩みは、とてもデリケートで誰にでも話せることではないかもしれませんが、でも、一人で抱え込んでしまうと、気持ちは減るばかりでストレスとなってしまいます。治療についての情報を得て知識を深めることや、心身の不調を伝えることはとても大事なことです。

[相談センターのリーフレットコンパクトな手のひらサイズ]

札幌市のホームページでは、不妊専門相談センターの業務案内を含む不妊治療支援の案内を掲載している。＜不妊症の原因・治療・女性の年齢と妊娠のしやすさ＞、＜男性不妊の男性側の原因・検査＞、＜不育症のリスク因子・治療＞などの情報を通じて、不妊に悩む市民への周知とともに、これらの情報をきっかけとした相談センターの利用につなげたいとの考えに基づいたコンテンツを作成している。

The screenshot shows the Sapporo City website's fertility support page. On the left, there is a navigation menu with '不妊治療支援' (Infertility Treatment Support) selected. The main content area is titled '不妊治療支援' and includes a '新着情報' (New Information) section with several bullet points about support programs. Below that, there are buttons for '不妊症・不育症について' (About Infertility/Infertility), '特定不妊治療費助成' (Specific Infertility Treatment Fee Subsidy), '指定期間' (Designated Period), 'Q&A', and '講演会・交流会' (Lectures/Exchanges).

On the right, there is a section titled '不育症のリスク因子' (Infertility Risk Factors). It includes a list of 8 risk factors and a pie chart showing their frequency. The pie chart data is as follows:

リスク因子	件数	割合
免疫的流産・リスク因子不明	344件	65.3%
免疫的流産・リスク因子不明の中等抗体陽性	119件	22.6%
抗体陽性	43件	7.8%
染色体異常	24件	4.6%
甲状腺異常	16件	6.8%
第XII因子欠乏3例	3例	7.2%
プロテインC欠乏2例	2例	7.4%
プロテインS欠乏2例	2例	7.4%

Additional text on the right includes '不妊症のリスク因子別頻度' (Frequency of Infertility Risk Factors by Type) and '不妊症の治療' (Treatment of Infertility), stating that treatment is provided for identified risk factors.

[札幌市のHP 左:不妊治療支援のコンテンツ 右:不育症のリスク因子を紹介。リスク因子がある場合でも100%流産するわけではない]

(札幌市不妊専門相談センター)

9 札幌市不妊専門相談センターから寄せられた課題と展望

(1) 課題

運営に当たっての課題としては、一般相談の相談員を臨時職員として雇用していることから、札幌市の規定（札幌市で採用の臨時職員は任期1年、雇用期間後半年間は採用できない）により、年度毎に人員が交代する。そのため相談員としての知識やノウハウが蓄積されづらいという課題が挙げられた。

(2) 今後の展望

相談員の人員体制については、日々の相談業務に寄せられた相談と回答を健康企画課において蓄積しながら活用していき、また、専門相談に一般相談の相談員が立ち会うことで専門的な見地を学んでいくことが挙げられた。国としてもQ&A集のような相談対応のハンドブックを行政が改訂作成し、全国の不妊専門相談センターに活用されることで、相談対応及び不妊治療に関する知識がより一般的に周知されるのではないかとの提案があった。